

PROMAXON-D

最新改訂日：2016年6月09日
初版作成日：2011年8月23日

1. 化学品及び会社情報

製品名	PROMAXON-D
化学品の名称	ケイ酸カルシウム(結晶性) 別名：結晶性ケイ酸カルシウム水和物
会社名	Promat International NV
住所	Bormstraat 24 2830 Tisselt BELGIUM
メール	info@promat-international.com
電話番号	+32 (0) 15 71 81 00
FAX 番号	+32 (0) 15 71 81 09
緊急連絡電話番号	+32 15 71 81 00 (営業時間中のみ)
推奨用途	ブレーキパッドやライニングの摩擦材、ペンキ及び塗料中のチキソトロピー剤、顆粒のための離型剤、ドライリキッドキャリアー、難燃剤、熱可塑性樹脂のドリップ抑制剤、他の用途
使用上の制限	情報なし

2. 危険有害性の要約

危険有害性の概要	製品を取扱い及び処理をすることにより、空气中に粉塵が放出される可能性がある。 - 粉塵のほとんどのタイプと同じように、粉塵の過剰な吸入は、気道の刺激を引き起こす可能性がある。 - 粉塵の眼への接触により、一時的に眼刺激や炎症につながる可能性がある。 - 長時間の皮膚接触は、皮膚刺激につながる可能性がある。
----------	--

GHS分類

物理化学的危険性	分類できない 又は 区分外
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 2 A
環境に対する有害性	分類できない 又は 区分外

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	H319 強い眼刺激

注意書き

【安全対策】

P264 取扱い後はよく手を洗うこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

PROMAXON-D

最新改訂日：2016年6月09日
初版作成日：2011年8月23日

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質

化学名/一般名/別名/化学式	CAS 番号	化審法 官報公示番号	濃度 (%)	REACH 登録番号
結晶性ケイ酸カルシウム水和物	1344-95-2	1-194	>98	02-2119990740-32

(注) 製品の分類に影響を与える他の成分又は不純物は含まれていない。

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移し、水を飲ませること。 気分が悪い時は、医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合	飲食や喫煙の前、及び作業場を離れる場合には、手及び他のばく露された部位を刺激の少ない石けんで洗うこと。 刺激が続く場合には、医師の診察を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズをしていて容易に外せる場合には、外すこと。洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 飲み水を与えること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	かゆみ。 発赤。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じた措置をすること。

5. 火災時の措置

消火剤	周囲の火災に適した消火剤を使用すること。
使ってはならない消火剤	なし
火災時の特有の危険有害性	なし
消火を行う者の保護	可燃性クラス： 可燃性ではない。 適切な保護服および保護眼鏡または保護面を着用すること。 自給式呼吸器を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	粉塵の吸入を避けること。眼や皮膚に触れないようにすること。 推奨個人用保護具を着用すること。項目7及び項目8参照。
環境に対する注意事項	環境に放出しないこと。
浄化の方法	廃棄物用容器に入れる、又は掃除機に入れる前に粉塵を湿らせること。
他の項目への参照	項目7及び項目8を参照すること。

PROMAXON-D

最新改訂日：2016年6月09日
初版作成日：2011年8月23日

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

取扱い及び処理のための説明：

- 取り扱いおよび処理により発生する粉塵は排出されなければならない、規制されている合計と吸入の粉塵の職業ばく露限度が尊重されなければならない。
- 換気の良い場所で作業すること。
- ばく露が起こりそうか、又は、職業ばく露限度(地域の規制を参照)を超えることが予見されうる場合には、常に適切な粉塵排気装置付きのツールを使用すること。
- 粉塵を掃除機で収集する、又は、掃く前に水に浸けること。

飲食物、動物用飼料から遠ざけること。

飲食や喫煙の前、及び作業場を離れる場合には、手及び他のばく露された部位を刺激の少ない石けんで洗うこと。

個人用保護具

すべての不要なばく露を避けること。眼、皮膚および衣類から迅速な除去を確実に行うこと。

技術的保護対策

局所排気と一般的な部屋の換気のどちらもが通常必要とされている。

保管

乾燥状態で蓋をして霜の降りない場所で保管すること。

使用後は適切にバッグを閉じること。

特定の最終用途

利用可能なデータなし。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度
(ばく露限界値)

管理濃度：土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉塵 3 mg/m³
日本産業衛生学会 許容濃度：第3種粉塵(その他の無機および有機粉塵)
吸入性粉塵 2 mg/m³、総粉塵 8 mg/m³
(参考) ACGIH(米国 産業衛生専門家会議) TWA(時間加重平均)：10 mg/m³
(参考) 英国：職業ばく露限度

- 粒子は分類または規制されていない (nuisance dust)
- 吸入性：10 mg/m³
- 呼吸性：4 mg/m³

導出無毒性量 (DNEL)

長期職業ばく露：全身又は局所影響

予測無影響濃度 (PNEC)

該当事項なし。水性毒性は低いと予想される。

職業ばく露管理

一般的な保護管理：十分な換気を確保すること。

呼吸の保護

十分な換気が維持される場合には、特別な保護は必要ない。

一方、ばく露が起こりそうか、又は、職業ばく露限度を超えることが予見されうる場合には、適切な個人用呼吸用保護具(例：職業ばく露限度の10倍までは少なくともP2タイプのマスク。更に高い場合には、P3タイプのマスクを使用すること)を着用すること。

皮膚の保護

長袖の作業衣を着用すること。

眼の保護

十分な換気が維持される場合には、特別な保護は必要ない。

十分な換気が維持されない場合には、密着する保護眼鏡又は保護面を着用すること。

職場に眼の洗浄装置を用意すること。

手の保護

反復または長期の接触がある場合には手袋を着用すること。

摂取

使用する場合には飲食、喫煙をしないこと。

PROMAXON-D

最新改訂日：2016年6月09日
初版作成日：2011年8月23日

9. 物理的及び化学的性質

外観	乾燥した粉末
臭い	無臭
pH	9~10
融点	利用可能なデータなし。
沸点	データなし
引火点	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性	データなし
爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	データなし
溶解度(水)	37 mg/l (20°C)
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
爆発性	データなし
酸化性	データなし
その他情報	
密度【kg/m ³ 】	約 2.6000
かさ密度【kg/m ³ 】	85~130

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では安定。
化学的安定性	通常の条件では安定。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	
感作性	動物実験では皮膚感作を引き起こすことはなかった。
慢性毒性	
- LC ₅₀ 吸入粉塵[mg/l]	> 4.9
生殖毒性	生殖機能及び臓器に悪影響を及ぼすことは知られていない。
変異原性	遺伝性の遺伝子損傷を引き起こすことは知られていない。
催奇形性	出生異常を引き起こすか、胎児に有害な影響を有することは知られていない。
特定標的臓器毒性	利用可能な情報なし。
- 吸入	試験は実施された。
- 皮膚	試験は実施された。

PROMAXON-D

最新改訂日：2016年6月09日
初版作成日：2011年8月23日

- 眼 眼に対して刺激がある。
- 摂取 影響は知られていない。

1 2. 環境影響情報

- 生態毒性 影響は知られていない。
- 残留性・分解性 加水分解半減期：<6日。物質は無機物質であり、従って生分解を受けない。
- 生体蓄積性 物質は無機物質であり、従って生物蓄積性の対象ではない。
- 土壌中の移動性 物質は吸着する可能性が低い。
- PBT及びvPvBアセスメントの結果 適用対象外。
(注)PBT：難分解性、生体蓄積性、毒性
vPvB：極めて難分解性で高い生体蓄積性
- 他の有害影響 利用可能なデータなし。

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 地方自治体の規制に従って廃棄すること。
- 汚染容器及び包装 地方自治体の規制に従って廃棄すること。

1 4. 輸送上の注意

- UN番号 該当なし
- UN proper shipping name(品名) 該当なし
- 輸送危険分類
 - 一般情報 輸送規制における危険貨物には分類されない。
 - 道路輸送 製品は危険貨物に分類されない。
 - 航空輸送 製品は危険貨物に分類されない。
 - 海上輸送 製品は危険貨物に分類されない。
- 包装グループ 該当なし
- 環境危険性 該当なし

1 5. 適用法令

- 労働安全衛生法
 - 通知対象物 該当なし
 - 表示対象物 該当なし
 - 粉じん則 26条(作業環境測定：土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉じんを著しく発散する屋内作業場)
- 毒物及び劇物取締法 該当なし
- 化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律 該当なし
- 化学物質排出把握管理促進法 該当なし
- 化学品安全性アセスメント 利用可能ではない。

16. その他の情報

その他情報

なし

免責事項

本 SDS に記載された情報は、信頼性のある情報源から得られたものです。しかしながら、ここに記載された情報はその正確性に関して、表現や暗黙に明示される何らの保証をすることはありません。製品の条件、取扱い方法、保管、使用又は処分は、我々の管理を超えており、我々の知識の範囲を超えている可能性があります。このような理由等から、損失、損害又は費用について、あるいは、製品の取扱い、保管、使用又は廃棄に関していかなる方法でも、責任を負う又は明示的に責任を負うようなことは致しません。本 SDS は、この製品のために準備され使用されるものである。もしこの製品が他の製品の一つの成分として使用される場合には、本 SDS は適用できない可能性があります。

この安全データシートは、日本工業規格 JIS Z 7252:2014 及び JIS Z 7253:2012 に従って作成した。